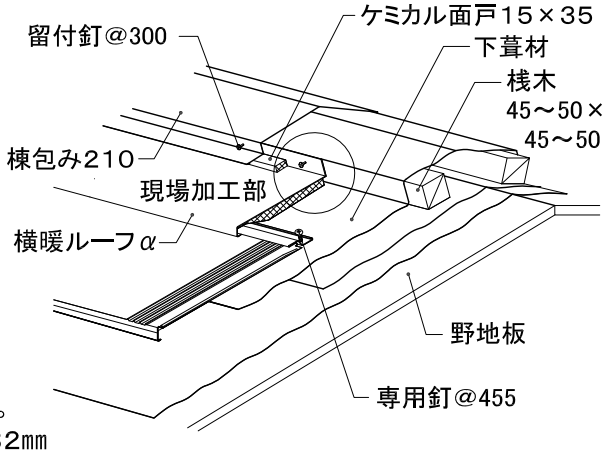
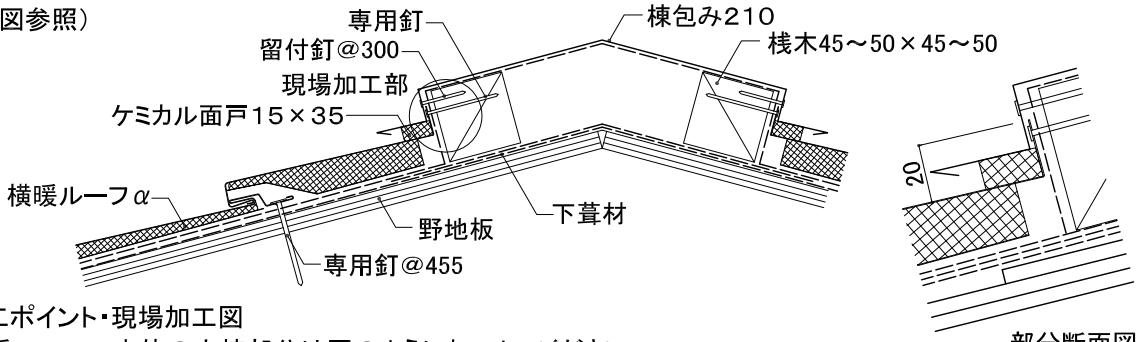
横暖ルーフα	工 法	下 地	構造
	新築	耐水合板	木造

6）大棟部　　棟包み210

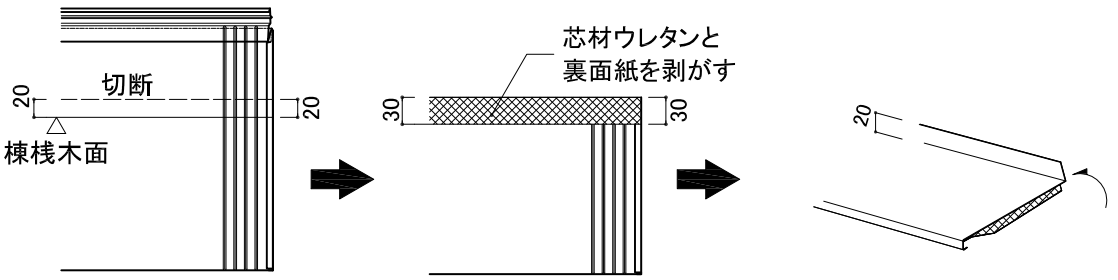
○棟包み210の適用勾配と桟木位置は
P254をご参照ください。
○野地板の上に下葺材を張ってください。
○棟部に桟木45～50㎜×45～50㎜を
外側2ヶ所に取り付け、桟木を包むように
下葺材を増し張りしてください。
※工事中は棟包み210に乗らないでください。
工具・部材も置かないでください。棟包み210が
変形するおそれがあります。
○棟部を図のように加工した横暖ルーフα本体
を桟木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸
15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせてください。
棟包み210は、留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜
以上）を用いて、300㎜以下の間隔で桟木に留め付けてください。
○けらば部は棟巴を用いて納めてください。
（下図参照）





部分断面図

■施工ポイント・現場加工図
○横暖ルーフα本体の大棟部分は図のように加工してください。

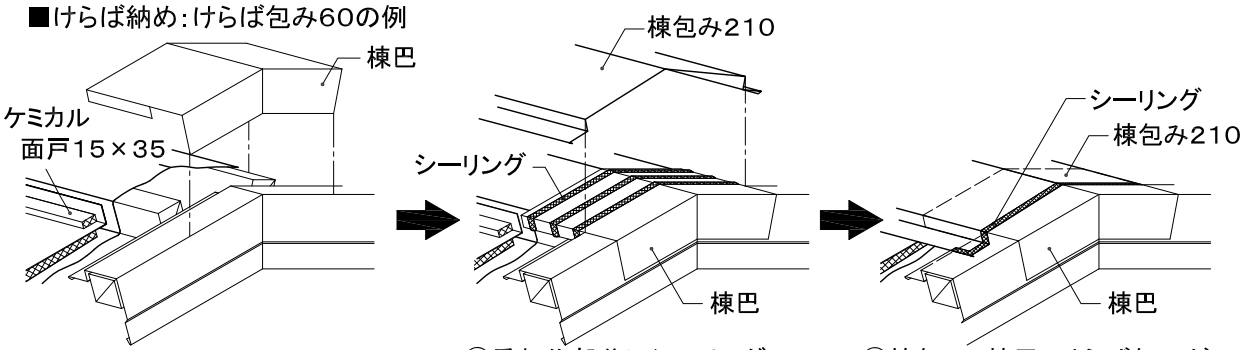


①棟桟木面から
図の寸法で切断します。

②端部から30㎜の位置まで芯材の
ウレタンと裏面紙を剥がしてください。

③端部から20㎜の位置を
折り曲げて立ち上げます。

■けらば納め：けらば包み60の例



①棟巴を屋根勾配に合わせて
けらば包み60と桟木の上に
かぶせます。

②重ね代部分にシーリングで
ビードを3本作り棟包みを
かぶせます。

③棟包み、棟巴、けらば包みが
交わる部分に捨てシーリングを
施工してください。